

# BUSINESS REPORT

## 第66期 事業レポート

平成26年12月1日～平成27年11月30日



北興化学工業株式会社

証券コード：4992

## To Our Shareholders

### 株主のみなさまへ

代表取締役社長

中島喜勝



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第66期事業レポートをお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

第66期の業績につきましては、後述の「事業の経過および成果」のとおり、売上高は422億5千1百万円、営業利益は27億7千9百万円、経常利益は29億5千6百万円、当期純利益は19億円となりました。

これも、株主のみなさまをはじめ、関係者各位のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

期末配当につきましては、1株につき5円とし、中間配当と合わせて、年間9円とさせていただきます。

当社グループは、平成29事業年度を最終年度とする新3ヵ年経営計画に取り組んでおります。

本計画を達成することにより、収益力の強化と財務体質の改善を図り、持続的な成長の実現と企業価値の向上を目指してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年2月

## 事業の経過および成果

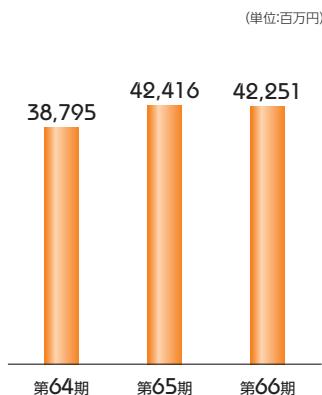
第66期連結会計年度におけるわが国経済は、円安による企業収益の改善や堅調な設備投資に支えられ、前年度に引き続き緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、個人消費の回復が遅れていることに加え、中国経済の減速傾向が鮮明となったことから、直近の実質GDPこそ2四半期ぶりにプラスに転じたものの、景気回復の足取りは鈍いものとなっています。米国における金融緩和政策からの転換の影響も懸念されており、景気の先行きは全般的に不透明感を増してきています。

このような状況のもと、当社グループは、農薬事業においては新製品の普及拡販、ファインケミカル事業においては新規受注の獲得を目指して、販売活動を強化してまいりましたが、当社グループの売上高は、ほぼ前年度並みの422億5千1百万円（前期比1億6千5百万円の減少、同0.4%減）となりました。

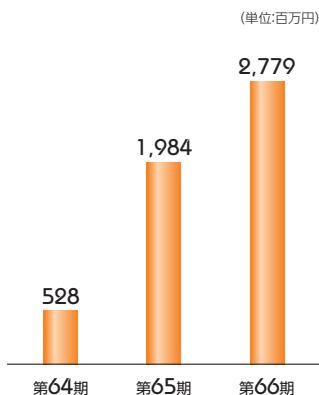
利益面では海外販売の増加および円安効果などにより、営業利益は27億7千9百万円（前期比7億9千5百万円の増加、同40.1%増）、経常利益は29億5千6百万円（前期比11億6千6百万円の増加、同65.1%増）となりました。なお、当期純利益は東京・日本橋室町の再開発事業による本社移転補償金の特別利益計上などもあり19億円（前期比9億3百万円の増加、同90.5%増）となりました。

## 直近の業績の推移

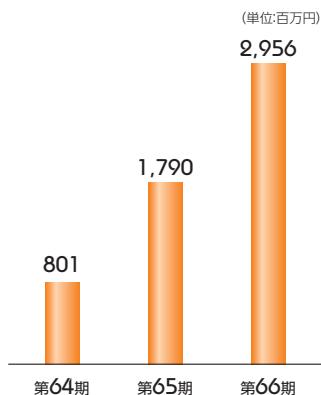
## 売上高



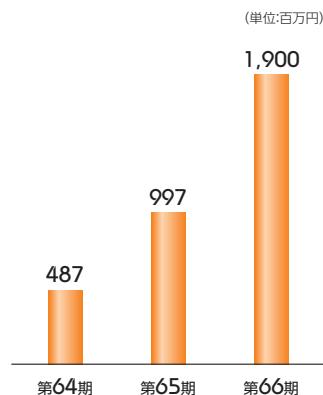
## 営業利益



## 経常利益



## 当期純利益

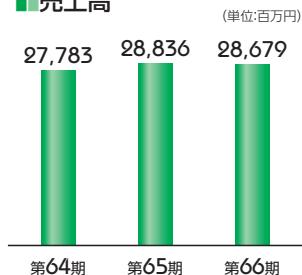


## 農薬事業

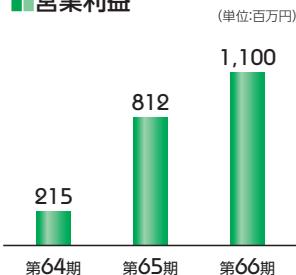
自然環境にやさしい“種子から収穫まで護る”製品をラインアップ。国内はもとより海外へも市場を拡大しています。

農薬製品は、国内販売において新規水稻用除草剤が伸長し、海外販売において殺菌剤・殺菌剤用原体の受注が増加しましたが、子会社における家庭園芸用農薬の販売減少により、減収となりました。この結果、本セグメントの売上高は286億7千9百万円（前期比1億5千7百万円の減少、同0.5%減）、一方、営業利益は海外販売の増加および円安効果などにより、11億円（前期比2億8千8百万円の増加、同35.5%増）となりました。

## 売上高



## 営業利益



## ファインケミカル事業

グリニャール反応の工業化技術をキーテクノロジーに、幅広い産業界からのニーズに応えています。

ファインケミカル製品の販売は、主要分野の樹脂添加剤や医薬薬中間体が減少しましたが、その他の受託品が好調に推移したことから若干の増収となり、この結果、本セグメントの売上高は135億3千8百万円（前期比2千9百万円の増加、同0.2%増）となりました。営業利益は、生産性の向上などにより16億6千3百万円（前期比5億1百万円の増加、同43.1%増）と大幅な増益となりました。

## 売上高



## 営業利益



当社グループは、  
「社会貢献」「環境」「技術」を経営の  
キーワードとし、全ての人々の幸せのため、  
食糧の安定供給に寄与する安全で安心な農薬製品  
並びに産業活動を幅広く支える  
ファインケミカル製品を社会に提供していきます。

## 第67期(平成27年12月1日～平成28年11月30日)の 業績見通し

売上高は前期比ほぼ横ばい(微減収)ですが、農薬事業・ファインケミカル事業に対する後方支援の強化(海外展開拡大に向けた体制の整備等)や自社開発関連製品の拡大に向けた研究開発等、新3カ年経営計画の目標達成に向けた基盤整備にかかる費用の増加により減益となる見込みです。

通期の業績見通しは次の通りです。

売上高	42,000百万円	前期比 0.6%減
営業利益	2,050百万円	前期比 26.2%減
経常利益	2,250百万円	前期比 23.9%減
当期純利益	1,400百万円	前期比 26.3%減

当社グループは、平成29事業年度を最終年度とする新3カ年経営計画の目標達成に向け、収益力の強化と財務体質の改善に取り組んでおり、第67期(平成28事業年度)は、2年目となります。

## 新3カ年経営計画

当社グループは、持続的な成長の実現と企業価値の向上を図るため、「利益計画の確実な実行」および「自己資本の充実に向けた財務体質改善の取り組み」を基本方針とした新3カ年経営計画を策定し、平成28事業年度、平成29事業年度の売上高、経常利益目標を達成することによって、最終年度において、下記の自己資本金額、自己資本比率目標の達成を目指しています。

### 数値目標（連結）

項目	平成29年11月期
売上高	42,200百万円
経常利益	2,500百万円
自己資本金額	21,000百万円
自己資本比率	47.0%

当社グループは、組織・設備・開発という、3つの柱を拡充しながら事業を展開することにより、売上の伸びに頼ることなく利益を創出できる体質への転換を一層推し進め、自己資本の増強と自己資本比率を向上させ、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。



「新3カ年経営計画」の詳細につきましては、当社ホームページに掲載しています。

<http://www.hokkochem.co.jp/>

## 会社の概要 (平成27年11月30日現在)

会社の商号 (英訳名)	<b>北興化学工業株式会社</b> HOKKO CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD.
本社	東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
創立年月日	昭和25年2月27日
資本金	32億1,395万円
上場取引所	東京証券取引所 市場第1部上場
従業員数	661名
事業所の所在地	支店 札幌、仙台、東京、新潟、 大阪、岡山、福岡 工場 北海道、新潟、岡山 研究所 開発研究所(神奈川)、 化成品研究所(神奈川) 試験農場 北海道、静岡

## 株主メモ

事業年度	12月1日から翌年11月30日まで
配当金受領株主確定日	期末配当 11月30日 中間配当 5月31日
定時株主総会 公告方法	毎年2月 電子公告(当社ホームページ) ただし、電子公告による公告ができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)



## 北興化学工業株式会社

〒103-8341 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号  
住友不動産日本橋ビル  
TEL.03(3279)5151



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

